

# JICA だより



広島市中区在住  
今井恭子さん(43)  
仙台市太白区出身

小学生の頃、「消えてしまいたい」と思っていた時期がある。6人きょうだいの長女で、両親は自営業。日常の家事や、体調を崩した幼い兄弟のために学校を休んでそばにいるのは私の役目だった。

冊の本「はだしのゲン」。

生きてくても生きられない人がこんなにもいた。そして世界には、今でも生きてくても生きられない人がたくさんいる。

「誰もが、自分らしく輝

今の時代なら「ヤングケアラー」というのだろう。「お姉ちゃん」として「いい子」だった私は、誰かに相談をすることができず、今を捨ててしまいたかった。そんな時に出会った1

く人生を送ることのできる社会にする」。当時、心に芽生えたこの思いを私の使命として胸に抱き、昨年度より「東広島イノベーション

## 世界課題 広島から解決

「ユンラボミライノ十」という市営施設の企画運営を担当している。

創業・起業や社会課題の解決を応援する場であるミ



JICA中国と共催した高校生がデザインする社会課題解決コンテスト。参加した高校生たちと

ライノ十で市民が自らの思いの実現に向けて「円陣」では、「家具等リサイクルプラットフォーラム」の構築を目指しているというナイジェリアからのJICA留学生を支援した。

今月22日には、サヘル諸国のJICA研修員に、ミライノ十の取り組みを紹介する予定だ。社会課題解決を加速させるためには、ビジネスの仕組みにのせることが重要である。東広島市で、課題解決ビジネスの創出と持続のためのエコシステムを組み立てることで、世界の課題解決への寄与を目指していきたい。

始めている。

今年3月に実施した「JICA×ミライノ十 高校生がデザインする社会課題解決コンテスト」では、30人近くの高校生が参加し、思い思いの課題解決プランを発表しあった。東広島市